

# まほるば



## 病院の理念

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います

第74号

2007年8月発行

## 【コラム】挨拶をするということ

挨拶はお互いを引き合わせる大切な手段です。山にハイキング行くと、全く知らない人でもすれ違うときに大部分の人は「こんにちは」、「山はどうでしたか」、「これからですか」などとどちらからともなく挨拶の声かけをします。

それが下界におりてきた途端に、道ですれ違って挨拶はおろかお互いに無視します。これはどうしてでしょうか。山に登る人も山から下る人も同じく汗をかき、同じ苦勞をするという同類意識がそうさせるのでしょうか。山という雰囲気が挨拶する気分にさせるのかもかもしれません。

患者さんから「弘前病院のお医者さんは概して私たちに挨拶しませんね」との声が聞かれます。弘前病院のお医者さんは人間的にも学問的にも立派な医師が多いと自負しています。それなのに挨拶が少ないということは、病院として挨拶しようとする雰囲気不十分なのでしょう。施設を預かる者として、いつでも誰とでも挨拶の声かけをできる雰囲気作りに一層努力いたします。



院長 五十嵐勝朗

## ようやく、実った!! BFH「赤ちゃんにやさしい病院」認定 BFH委員会

この度、当院が取り組んできた母乳育児支援の活動がユニセフ・WHOから認められ、平成19年7月28日富山市オーパードホールで開催された第16回母乳育児シンポジウムにおいて、ピカソの「母子像」の絵を頂いてきました。これに伴いこれまでの活動をさらに充実させ継続していくことと、赤ちゃんや家族のために、病院として、病棟としてまた個人として出来ることを常に意識してすすめていきたいと考えています。



さて、「今、なぜ、母乳育児支援なのか」を改めて考えてみますと、厚生労働省が推進する「健やか親子21」にも「赤ちゃんを健やかに産み育てていくために周産期医療・子育てに関わっている多くの人々が連携して応援していこうという方針」が掲げられており、地域を巻き込んだ子育て支援が活発になりつつあるからです。実際に親子も、私たちがこれらに取り組むことによって、究極的には「いのち」に向き合う行動であると実感させられます。

そして最初は心配やら不安を抱えていたお母さん方も母乳育児が軌道に乗り、自信とやさしさに満ちた表情で家族と接しているすかたを見てみると、私たちも幸せな気持ちをお裾分けしてもらっています。おっぱいから栄養ばかりでなく、ピュアな気持ちの交流をしながら互いの健康に向き合うことが出来ると考えています。例えば「母乳育児成功のための10か条」の一つですが、赤ちゃんにとって、おっぱいは大人が決めた時間、決めた量を与えるのではなく、赤ちゃんが「欲しいときに欲しいがままに」と言うことを満たすだけでどれほど親子の絆に影響を与えているかと思えます。



当院はこれからBFHI（イニシアティブ）として地域や青森県内の母乳育児推進をすすめている仲間や初めて母乳育児を経験するお母さんや若い人たちに寄り添い、支援しながら多くのメッセージを伝えることが出来るように活動していきます。

母子医療センター看護師長 杉山 淳子

## 【診療科紹介】小児科 赤ちゃんや子供のことなら何でも！

### \* 津軽地域の新生児医療の中心

低体重新生児が生まれる可能性の高い妊婦さんの母体搬送の受け入れは勿論、生まれた新生児になんらかの異常があった症例の大半は当センターに連絡が入り搬送されて来ます。

スタッフは24時間緊張の連続です。でも急性期を脱し、カンガルーケア（母子接触の方法で、お母さんまたはお父さんの胸に赤ちゃんを抱っこしてもらいます。写真1）ができるようになって、お母さん、お父さんの笑顔を見るとこちらもうれしくなります。



写真1

写真2：タッチング（親子接触の方法、人工呼吸管理中でも、隣でエコー検査中でも）

\* 「赤ちゃんにやさしい病院 BFHI」として 赤ちゃんの命を守るための医療に邁進すると同時に、私たちは“親子の絆、家族の絆”



写真2

作りのお手伝いをしています。その一つ、母乳育児を推奨しています。

まず、お母さんが赤ちゃんを上手に抱っこできるように「赤ちゃんとは一直線になるように、そしてお母さんの体に沿う様にくっつけてー！」等のアドバイス。すると、赤ちゃんも心地よく、おっぱいをたくさん飲めるようになります。

私たちの技術を提供しながら、これからも母乳育児の大切さを発信していきます。

### \* 小児救急輪番病院として

外来診療、西1病棟、時間外・小児救急患者の診療は「これぞ小児科！」と研修医に評され、又紹介率の高さを誇っています。軽症から重症まで、腸重積、化膿性髄膜炎などは時間との勝負。決して見逃してはいけない小児疾患にも度々遭遇します。小児科医師4人と外来、病棟看護師、そして検査科、放射線科とのチームワークで地域からの期待に応えています。

小児科医長 野村 由美子

## 【市民講座】インスリンの話ー糖尿病から人類を救うホルモンー

インスリンの発見で世界の歴史が変わりました。その時「糖尿病で死ぬ」時代から「糖尿病と生きる」時代が変わったのです。そこで今日の「その時」を1921年7月30日といたします。

86年前の夏の暑いこの日、バンティングとベスト、二人の青年によってインスリンが発見されました。糖尿病の歴史は古く、糖尿病らしい症状が紀元前1500年のパピルスに記載されています。その後、紀元1800年くらいまでは、この病気になると甘い尿がでるといことが分かったくらいで、糖尿病はただただ死の病と恐れられていました。1800年代後半から科学・医学が著しく進歩します。膵臓を摘出すると糖尿病になるという発見、膵臓にはホルモン



を出す多くの細胞の集団（ランゲルハンス島）があること、どうやらそこから出るホルモンが血糖を下げてくれて糖尿病にならないようにしてくれていること、そして膵管（消化酵素などの十二指腸への通り道）を結んでしまうと消化酵素を分泌する細胞は死滅するものの島の細胞は生き残る、などの研究成果が出ました。さあ、後は、誰がこのホルモン（これがインスリンなのですが）を抽出するか、世界中の研究者による競争が始まります。ここに登場するのが、第一次世界大戦の戦場から戻ってトロントの町で整形外科を開業したもののさっぱり患者のいない青年医師バンティングと、トロント大学の医学生ベストであります。

さあ皆さん、今日の「その時」まで、あと3ヶ月となりました。バンティングは・・・あッ、もう紙面がなくなりました。続きはまた別の機会に。  
臨床研究部長 泉井 亮

※【市民講座】インスリンの話ー7月25日（水）市民講座は、毎月開催しており、どなたでも参加できます。

## 『青年共同宿泊研修』に参加して

7月9～13日まで青年共同宿泊研修で、北海道美瑛町の国立大雪青少年交流の家に行ってきました。この研修は、定期的な共同宿泊研修を通して基本的知識と認識を深めるとい目的で、北海道・東北ブロックの国立病院機構の中堅職員に対し行うものでした。

内容は、1～3日目は主に病院運営や国立病院機構の制度の講義や、職場の人間関係・コミュニケーション、接遇についての講演。また、病院をよりよくするために必要なことを研修班別のテーマをそれぞれ討議し発表しました。

4日目には富良野岳登山がありました。研修中唯一の雨でしたが、決行となり残雪と道もきちんとないような山道を雨・風の寒い中登りました。ケガをした人もいましたが全員頂上まで登りきることができ

ました。

今回の研修は看護学校から弘前病院しか知らなかった自分にとって、他病院の職員と接するこができたし、看護師以外の職種の方も参加していたことで新しい仲間との意見交換もでき、とても貴重な経験となりました。登山は本当に苦しいものでしたが、充実した楽しい研修でもありました。これから機会のある方にはお勧めです！



西2病棟看護師 山内 美穂

## 医薬品の取扱（麻薬編）

4月の新人看護師オリエンテーションで医薬品の取扱（麻薬等）について説明・解説をしました。当院では、内用6種類（12規格）、外用2種類（5規格）、注射3種類（5規格）の11種類22規格の麻薬が患者さんの治療に用いられています。麻薬は、医療法、薬事法で規定されている医療用一般薬の他に、麻薬・向精神薬取締法でさらに厳重な、管理・運用が必要とされています。

たとえば、一般注射薬の残液は施用現場（病棟等）で廃棄しても差し支えないが麻薬では使用残が生じた場合は麻薬管理者へ返納し、他の職員が立会いのうえで廃棄し帳簿に記載しなければならない、うっかり施

用現場で廃棄等の行為をした場合には保健所を通じて県知事に事故届けを提出し、今後2度と施用現場で廃棄等を行わない旨の改善書を提出しなければならない。この一例をとっても麻薬の取扱いは、厳格かつ緻密な管理が必要で、当院でも麻薬マニュアルを作成して運用しています。これほど厳しい管理が必要な麻薬は、痛みに対して大変有効な薬で、他の麻薬以外の薬では代替できず患者さんにとってなくてはならない必要な薬です。日常的に処方され投与されている麻薬の管理について、麻薬マニュアルに沿って運用・管理を良く理解して下さるようお願いいたします。

薬剤科長 寺谷 弘二

## 【金魚ねぶた】 ことしも金魚ねぶたが外来ロビーをおよぎました

浴衣姿の子供が「金魚ねぶた」を持ってると、なんとなく微笑ましい。甚平姿で角刈りのおっさんが「金魚ねぶた」を持っているのも、ピミョーに微笑ましい。

根っからの津軽人でなくとも、妙にそわそわする弘前ねぶたの季節となり、当院でも、外来待合室に例年通り「金魚ねぶた」が10匹現れ、来院する患者様に愛嬌をふりまいている。「金魚ねぶた」を取付けていたときに、それにしても・・・なんで「金魚」なんだろう？って疑問に思ったのだが、きちんと前を向いてるのやら、そっぽを向いてるのやら、ひねくれて完全に後ろを向いているのやら、それぞれの愛嬌のある「金魚ねぶた」を見て



いたら、そんな疑問なんかどうでもよくなってきた。しばらくすると近所の広場で練習しているのであろう、ねぶた囃子の音とかけ声が夏の風に乗って聞こえてきた。すると、「金魚ねぶた達」は太鼓の聞こえてくる方に「すっ〜っ」と向きを変えた・・・そうになったら・・・コワイ。

でも、この「金魚ねぶた達」は、案外みんな寝静まった後、病院を抜け出してどこか人のいなくなった扇ねぶたの回りで酒盛りしてるのではないだろうか。だから、「金魚ねぶた」は・・・赤いのかも知れない・・・。

庶務係長 高橋 卓雄

# 外来診療一覽

## ◆外来医師診療一覽表 (2007年8月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金
内科		人見博康	小沢一浩	人見博康	小沢一浩	小沢一浩
呼吸器科		山本勝丸	中川英之	中川英之	山本勝丸	中川英之
消化器科		佐藤年信 中畑元	佐藤年信 中畑元	佐藤年信 中畑元	中畑元 (藤田均)	佐藤年信 中畑元
小児科		杉本和彦 大谷勝記	野村由美子 佐藤啓	杉本和彦 大谷勝記	佐藤啓 野村由美子	野村由美子 杉本和彦
外科		田三澤上 俊勝	高橋克勝 三上勝也	横山昌樹 田澤俊幸	横山昌樹 高橋克郎	三上勝也 横山昌樹
整形外科	午前	柿崎寛 近江洋 上里涼 子	柿崎寛 工藤幸三 又は 加藤幸三	柳澤道朗 近江洋 嗣	柳澤道朗 又は 近江洋 嗣 又は 工藤整	柿崎寛 柳澤道朗
	午後	/	/	/	/	柿崎寛
脳神経外科		/	/	木村正英	/	/
皮膚科	午前	熊野高行 鳴海博美	鳴海博美 熊野高行 小笠原寛	鳴海博美 熊野高行 小笠原寛	熊野高行 鳴海博美 小笠原寛	熊野高行 鳴海博美 小笠原寛
	午後	熊野高行	●手術	鳴海博美 小笠原寛	●手術	小笠原寛
泌尿器科		大和隆	大和隆	大和隆	大和隆	大和隆
産婦人科		真鍋麻美 工藤香里	佐藤春夫 田中加奈子	真鍋麻美 工藤香里	●妊婦健診	佐藤春夫 真鍋麻美
眼科		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
耳鼻咽喉科		黒田令子 武田育子	黒田令子 武田育子	●手術	黒田令子 武田育子	黒田令子 武田育子
放射線科	診療	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	/	阿部由直 (午後)	/	/	/
麻酔科		●手術	●手術	●手術	工藤明	●手術

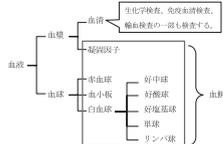
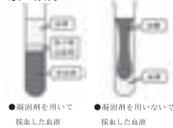
※学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

## 【シリーズ】臨床検査のABC⑪ 血液検査室

今回から血液検査(枠内の項目)についてお話ししていきたいと思ひます。

血液は体重の1/13を占めており、生体維持に必要な細胞と、おびたしい種類の物質を含んでいます。

血液の成分



血液の成分は、細胞成分(赤血球・白血球・血小板)と血漿成分に分けることができます。

血液検査室では、細胞成分で血球計数や血球形態の観察、血漿成

分で凝固検査を行っています。

1回目は血球計数:白血球数・赤血球数・ヘマトクリット値・ヘモグロビン値・血小板数・網状赤血球数

2回目は血球形態の観察:ガラスの板に血液を薄く延ばし染色液で染め、顕微鏡で観察します。

3回目は凝固検査:出血時間・プロトロンビン時間(PT)・フィブリノーゲン・トロンボテスト・ヘパプラスチンテスト・活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)・FDP・Dダイマー・AT III

今回は1回目として血球計数について説明します。

生理学主任 外崎 和代 臨床検査技師 橘 輝彦

## 高校生1日看護体験

例年日本看護協会から依頼を受けて行っている「高校生1日看護体験」今年7月27日(金)に16名(男子3名)が参加し実施しました。



今回参加者の中には、他施設で体験している人も複数おり、施設を変えて体験することも、将来の仕事を選択するうえで良いのではと感じました。

看護体験後のアンケートでは、「患者さんの顔にとてもはげまされました」、「ありがとうの言葉がとても嬉しかった」、「大変な仕事だけれど、やりがいがあると感じた」、「ボランティア感覚でたのしかった」「ここの学校を必ずうける」、「看護師に必ずなる」など頼もしい声が聞かれました。

将来有望な看護師になれるよう心から応援しています。

副看護部長 岡本 弘子

## 【津軽の夏】 夜空に響く「ヤーヤドー」ー弘前ねぶたまつりー

台風5号による影響が心配された今年の弘前ねぶたは、8月1日(水)～8月7日(火)の開催期間中、5日の駅前コース日途中に一時土砂降りに見舞われましたが、連日お囃子と「ヤーヤドー」の掛け声が津軽の夏の夜空に響いていました。

弘前のねぶたは、地域の人々の交流や子供達の健全な育成を目的としており、町内会単位での参加が多いため、のびのびとねぶたの綱について歩いたり、お囃子の笛やかつぎ太鼓に頑張っている子供達の姿が多いのも特徴です。進行時には元気いっぱいの子供達も、「ねーぶたーのもんどりこヤーレヤーレヤー

レヤー」と声があがる戻りの頃には、親御さんに抱っこされて眠ってしまう子もいます。

大型の扇ねぶたの「動」の鏡絵や「静」の見送り絵だけではなく、昭和55年(1980年)に重要無形民俗文化財に指定された伝統を守った運行形態(運行責任者・町印・前燈籠・前ねぶた・太鼓・囃子)、また、それに参加している子供達にも是非注目してください。



庶務係 工藤 真澄

## 夏の期間限定メニュー『おいしい涼理(料理)』開始!

栄養管理室では、7月から期間限定の新メニューを開始しました。コンセプトは、「患者さんにおいしい涼理(料理)を!」です。気になる中身は?

『鹿児島県産うなぎ』・『なま中華めんを使った冷やし中華』・『なま更科そば&なまワサビ』・



『天ざる』を実施しました。

患者さんの声として印象的だったのは、「普段はあまり食欲がないが、今回はおいしく頂きました。

「最近、料理に工夫がみられますね。」ということでした。

アンケート結果でも、食べて食欲が出たが60%、きょうのメニューはズバリ!80点以上が90%等、なかなか高い評価を受けております。

これからは「食欲の秋」です。秋の期間限定メニューも計画しておりますので是非!お楽しみに!

栄養管理室長 篠島 良介



## 【ふるさと紹介】 青森県深浦町

今回ご紹介するのは、私が15歳まで過ごした青森県西津軽郡深浦町です。青森県の西に位置し、秋田県との県境にある人口1万人ほどの町です。



弘前からは車で2時間、汽車(五能線)で2~3時間程度で行くことができます。観光資源が豊富で、海水浴でにぎわう千畳敷、温泉、宿泊用コテージが立ち並ぶウェスバ椿山など自然を満喫できるスポットが沢山あります。

いろいろなスポットがある中で私がお勧めするのは、十二湖の青池です。青池は、その名のとおり、群青の水を混える池で、じっと見ていると吸い込まれそうな感じです。また、ブナの原生林がそのまま水中に朽ちていて、太古そのままの自然が残っています。

太陽の光によって、さらに青さを増した青池は、訪れる人に神秘的な印象を与えてくれます。

機会がございましたら是非一度足を運んでみてはいかがでしょうか。

薬剤師 一戸 集平

## 【今月の川柳】

★【川柳募集】 あなたの川柳をお待ちしています。

「歩いたか!」トイレに残りし車椅子 (南病棟 葛西憲子)

微笑の慈愛で包む白衣人

※ 掲載した作品は、広報誌編集委員会で選出したものです。

### ◆ 苦情相談窓口

患者様やお見舞いの方などからの苦情・相談については、『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)や、院内6か所に設置している『ご意見箱』で対応しています。なお、皆様にお知らせした方が良い内容のものは、外来掲示板に掲示しています。

発行元 独立行政法人国立病院機構弘前病院  
Hirosaki National Hospital  
責任者 副院長 佐藤 年信

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地  
TEL0172-32-4311 FAX0172-33-8614  
ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~hirosaki/>